



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月5日

上場取引所 東 名

上場会社名 名糖産業株式会社
コード番号 2207 URL <http://www.meito-sangyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 水谷 彰宏

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 山崎 潔

TEL 052-521-7111

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	9,670	△1.9	189	△37.0	558	△3.2	276	△40.1
22年3月期第2四半期	9,858	△6.0	301	225.0	576	5.9	460	20.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	16.42	—
22年3月期第2四半期	27.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	43,377	30,486	70.1	1,809.47
22年3月期	46,619	32,326	69.3	1,920.50

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 30,420百万円 22年3月期 32,288百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	—	—	20.00	20.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

22年3月期期末配当金の内訳 特別配当 2円00銭

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,200	2.6	850	△34.3	1,200	△32.5	850	△30.7	50.56

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】4ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期2Q 21,265,000株 22年3月期 21,265,000株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 4,453,150株 22年3月期 4,452,390株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期2Q 16,812,323株 22年3月期2Q 16,813,791株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各国の景気刺激策の効果が薄れて世界経済に不透明感が強まるなか、景気回復の勢いが鈍化してきました。これまで新興国の経済成長に支えられ、持ち直しの動きをみせてきた国内景気は、急激な円高や株価の低迷、加えて厳しい雇用情勢や長引くデフレなどが下押し圧力となり、下振れリスクが懸念されるようになりました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましても、安全・安心で高品質な商品の提供への取り組みが強く求められる一方で、消費者の買い控えや店頭価格の下落など、厳しい経営環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、お客様に喜ばれ満足いただける付加価値の高い商品の提供ならびに積極的な販売促進活動を進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期に比べ1.9%減（下記のチョコレート商品の取引価格変更分を考慮すると1.1%減）の9,670百万円となりました。（食品事業において、9月よりファミリータイプのチョコレート商品の取引価格を変更しております。そのため売上高および販売促進費が前期の基準で計算した場合よりも減少しております。）営業利益につきましては、事業活動の効率化を図りましたが、売上高の減少および新工場の稼働に伴う減価償却費の増加などにより前年同期に比べ37.0%減の189百万円となりました。また、経常利益は前年同期に比べ3.2%減の558百万円となり、四半期純利益につきましては、特別利益の投資有価証券売却益107百万円および特別損失の投資有価証券評価損201百万円と資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額21百万円を計上した結果、前年同期に比べ40.1%減の276百万円となりました。

事業分野別の動向は、次のとおりであります。

食品事業

当第2四半期連結累計期間におきましては、主力の菓子部門は積極的な販売活動を展開し拡売に努めましたものの、個人消費が低迷するなか夏場の猛暑も大きく影響し、減収となりました。チョコレート類は、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」「ベストアソートチョコレート」などのファミリータイプの商品のほか、「ぷくぷくたい」をはじめとしたエアインチョコレートも売上を減少させ、減収となりました。キャンディ類は、小袋商品など自社商品の売上は落ち込みましたが、受託商品が増加し増収となりました。

粉末飲料部門は、ラインアップされた基幹商品や新商品の香り高い「ダージリンティー」の拡売に取り組みました結果、主力の「レモンティー」や「アップルティー」などの売上が増加して、増収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、猛暑で消費が高まるなか新商品や受託商品の売上も拡大し、増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースベーカリーは、商品開発や販売促進活動を積極的に展開した結果、主力のバウムクーヘン類やゼリー類の売上が好調に推移して、増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ2.3%減（チョコレート商品の取引価格変更分を考慮すると1.3%減）の8,370百万円となりました。営業利益につきましては、一部の原料で依然高止まり状態にあるものの概ね原材料価格は落ち着きをみせましたが、売上高の減少により前年同期に比べ1.3%減の441百万円となりました。

なお、愛知県小牧市に建設した株式会社エースベーカリーの新工場は、本年8月に本格稼働いたしました。

化成品事業

酵素部門につきましては、脂肪分解酵素「リパーゼ」の売上はシェア拡大に向けてのグローバルな営業活動が功を奏し増加しましたが、チーズ用凝乳酵素「レンネット」は売上を減らし、減収となりました。ともに海外を主な市場としており、急激に進んだ円高の影響を大きく受けました。

薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料の「デキストラン」の売上は減少しましたが、前連結会計年度に売上が無かったMR I（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾビスト』の原薬である「フェルカルボトラン」（今期より従来の「デキストラン・マグネタイト」の呼称を変更しております。）の売上が回復し、増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期とほぼ同水準の1,092百万円となりましたが、八王子市と小牧市に建設した新工場の稼働に伴う減価償却費の増加や円高の影響などにより、17百万円の営業損失となりました。前年同期は72百万円の営業利益でありました。

不動産事業

不動産事業につきましては、安定的に推移し、売上高は前年同期に比べ2.4%増の206百万円となり、営業利益は前年同期に比べ3.5%増の103百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,302百万円減少し、7,932百万円となりました。これは、現金及び預金が1,010百万円、受取手形及び売掛金が1,014百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,939百万円減少し、35,445百万円となりました。これは、有形固定資産が1,391百万円増加し、投資有価証券が3,334百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ3,241百万円減少し、43,377百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ3,843百万円減少し、5,469百万円となりました。これは、短期借入金が2,600百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2,441百万円増加し、7,422百万円となりました。これは、繰延税金負債が1,020百万円減少し、長期借入金が3,420百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,401百万円減少し、12,891百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,839百万円減少し、30,486百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が1,807百万円減少したことなどによります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比較し610百万円減少して、1,047百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は、721百万円となりました。資金の主な増加要因は、売上債権の減少額1,014百万円および減価償却費581百万円であり、主な減少要因は、たな卸資産の増加額590百万円および法人税等の支払額491百万円であります。投資活動の結果使用した資金は、1,816百万円となりました。資金の主な増加要因は、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入526百万円および定期預金の払戻による収入400百万円であり、主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出2,629百万円であります。また、財務活動の結果得られた資金は、484百万円となりました。資金の主な増加要因は、長期借入れによる収入3,420百万円であり、主な減少要因は、短期借入金の純減額2,600百万円および配当金の支払額334百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの業績は、食品事業の出荷が秋季から冬季に膨らむ傾向が強く、例年、上半期の業績は下半期に比べ相対的に低い水準となる傾向が強いこともあり、現時点では通期の連結業績予想につきまして、平成22年8月5日に発表いたしました数値を修正しておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

<簡便な会計処理>

① 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③ 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

<特有の会計処理>

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益および経常利益は0百万円、税金等調整前四半期純利益は22百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は24百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,080	2,090
受取手形及び売掛金	3,439	4,453
有価証券	597	496
商品及び製品	1,150	763
仕掛品	348	302
原材料及び貯蔵品	971	814
その他	356	331
貸倒引当金	△11	△17
流動資産合計	7,932	9,234
固定資産		
有形固定資産	13,801	12,409
無形固定資産	94	96
投資その他の資産		
投資有価証券	20,814	24,149
その他	802	797
貸倒引当金	△68	△67
投資その他の資産合計	21,549	24,878
固定資産合計	35,445	37,384
資産合計	43,377	46,619

(別紙)

名糖産業株式会社

平成23年3月期第2四半期決算参考資料

(金額単位：百万円、百万円未満切捨)

1. 第2四半期連結累計期間(中間期)の実績推移
(連結)

	18/9月	19/9月	20/9月	21/9月	22/9月
売上高	10,013	10,058	10,489	9,858	9,670
営業利益	368	361	92	301	189
経常利益	779	719	544	576	558
四半期純利益	513	403	381	460	276

2. 通期の実績推移と業績予想
(連結)

	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期予想
売上高	23,001	23,404	23,683	22,605	23,200
営業利益	1,260	971	705	1,294	850
経常利益	1,944	1,635	1,160	1,777	1,200
当期純利益	2,610	935	809	1,226	850

3. 事業別売上高予想
(連結)

	23/3期予想	増減率	22/3期
食品	20,100	0.9%	19,921
化成品	2,700	18.8%	2,273
不動産	400	△2.6%	410
合計	23,200	2.6%	22,605

4. 営業外損益の内訳(実績)
(連結)

	第2四半期連結累計期間		通期
	22/9月	21/9月	22/3期
営業外収益	432	358	605
受取利息及び配当金	304	277	465
持分法による投資利益	30	43	77
その他の営業外収益	97	37	61
営業外費用	64	83	122
支払利息	15	11	25
その他の営業外費用	48	72	96